



福島県 小学校長会 会報

- 巻頭言…………… 1
- 教育ニュース
任期付教職員など制度の
変更について…………… 2
- 特集「ふるさと『ふくしま』の
未来を担う心豊かでたくましい
子どもたちの育成 …… 3～6
- 支会だより…………… 7～10
- ふくしま人この道に生きる…11
- 表彰・各部だより……………12



教師の魅力

郡山市立芳山小学校 吉川和夫

未来を担う若者の目に、教師の仕事はどのように映っているのでしょうか。「教師という仕事の魅力とは?」「やりがいがありますか?」という彼らの質問に私はどう答えればいいのでしょうか。

このようなことが気になるようになったのは、教員採用数が増えても志願者数が増えないという現実があったからです。このことは、私たち教育界に大きな危機感をもたらすものです。なぜなら、未来のことは、未来を担う人材に託す以外にはないからです。しかも彼らが、教師という仕事に魅力ややりがいを感じていなかったとしたら学校現場にとっては大きな課題です。

私は、子どもを育てる仕事に魅力を感じ、成長していく子どもの姿に喜びを感じながら仕事をしてきました。もちろん、楽しいことばかりではありません。もしかしたら、つらいことの方が多かったかもしれません。でもそのつらさは、教師の魅力ややりがいを超えるものではなかったと思っています。最も、私が子どもに直接関わっていた時代と今は違う、さらに、定年を間近にした今だからこそ言えるのかもしれませんが、でも、教師という仕事にはいつの日も変わらない伝えるべき魅力があるはずです。

先日、世界的な指揮者マリス・ヤンソンスさんを悼むという新聞記事を目にしました。記事には、「マリス・ヤンソンスさん指揮のベートーベンの交響曲はどこまでもおおらかだった。多少の傷を恐れることなく、個々の奏者の自主性を何よりも大切にしたいという指揮者の親心を垣間見た。」とありました。そして、「一人一人に存分に己の歌を歌わせ、その先の調和に責任

をもつ。指揮者とはそういうものであり、違いを尊ぶことが共生の本質なのだと言葉をもって世界に示した。」と続きます。しかし、一方でマリスさんは常に各楽器群にすさまじい集中力で耳を澄ませていたそうです。オーケストラを構成する一人一人の違いや特徴を認め、その力を遺憾なく発揮させ、それが調和したときに聴衆はもちろん演奏者さえも感動させる演奏になるのだと思います。衝撃的だったのは、マリスさんのこの思いは、今までの授業や学校経営で求めてきたものと相通ずるものがあると感じたことです。

子どもは学びの中で、一人一人の個性が認められることで、安心して自分の力を発揮することができます。私たち教師は、その時の最大限の力を発揮し、その先の子どもの成長に責任をもつ。教師とはそういうものであり、子どもが自身の成長を実感できることこそ、教育の本質であると考えます。「先生、勉強が楽しくなりました。」「授業もおもしろいけど、先生も楽しそう。」「先生、〇〇ができるようになりました。」子どもたちは私たちが関わった分だけ応えてくれます。その成長を子どもたちと、また同僚と喜び合えることが教師という仕事の最大の魅力であり、やりがいではないのでしょうか。

学校において、私たちがマリスさんのようにタクトをふれるかどうかはわかりません。確かに学校は課題が山積していて、それは理想だと言われればそうかもしれませんが、少しでも理想に近づこうとすることも私たちの大きな仕事と考えます。未来を担う若者へ。「教師を見てください。魅力あるやりがいのある仕事ですよ。」

任期付教職員など制度の変更について

福島県教育庁義務教育課主幹 長谷川浩文

10月の台風19号、またその後の大雨は、学校にも多大な被害を与えました。床上浸水は5校、台風による休校が小56校、中24校、大雨による休校が13校ありました。郡山市の3つの小学校においては、他の学校に間借りしての学校再開でした。各学校においても、児童生徒や教職員の安全確保や避難所運営等にご苦労されたと思います。

私も郡山市の中学校に間借りした小学校に伺い、子どもたちが一生懸命学習に励んでいる様子を見て、台風のみならず東日本大震災からの復興途上の本県において、学校の果たす役割の大きさを改めて強く実感しました。

さて、次年度から「任期付教職員」が導入されるなど、大きな変更点があります。管理面での変更点と現状等について説明します。

1 任期付教職員について

今年度まで、「講師」の先生は、「臨時的任用」のみで、1年ごとの採用、しかも、いわゆる空白期間がある3月28日までの任用でした。

次年度からも臨時的任用の講師の先生はいるのですが（例えば病休補充など）、育児休業の教諭の代替は、育児休業の期間に合わせて、最長で3年まで任用ができる「任期付」の講師になります。（ただし、1年未満の育休など、臨時的任用の講師が配置される場合もあります。）

その他、事務職員と栄養職員の定数内欠員補充も任期付職員になる予定です。

あわせて、臨時的、任期付採用の養護教諭は「養護助教諭」と職名が変わります。

なお、臨時的任用も、年度末の空白期間はなくなる見込みです。

2 会計年度任用職員について

今まで時間講師の先生は、特別職の非常勤職員でしたが、「一般職のパートタイム会計年度任用職員」へと変わります。勤務の内容等に大きな変

更はありませんが、勤務時間により期末手当が支給される予定です。また、一般職に変わっても、「営利企業等への従事等の制限」の対象にはなりません。

3 採用や再任用について

教員の大量退職に伴い、令和2年度は小学校が約300名、中学校が約150名と、新規採用者が大幅に増えています。また、採用試験の内容等についても、変更する予定です。

今後も大量採用は続くと思われませんが、将来の福島県の教育を担う先生をしっかりと選考するとともに、メンター制などを取り入れながら、研修を通し教員をじっくり育てることができるよう努めていきたいと思えます。

なお、平成31年4月に採用された者から、県内で5年以上講師経験をしていた者は、1管内経験とみなす取扱いとするなど、変更点も出てきます。

また、大量退職に伴い、再任用者も全ての職種を合計すると500名を超える見込みであるなど、今後も増加が予想されます。

4 多忙化への対応について

県では、「教職員多忙化解消アクションプラン」に基づき、3年間で時間外勤務を30%削減する目標を掲げ、スクール・サポート・スタッフの配置を進めるなどしているところですが、県小・中校長会が「教員の働き方改革宣言2020」を策定したことは画期的なことであると思えます。

また、働き方改革については、今後、「変形労働時間制」などが話題になると思えます。

先生という職業の魅力を保ち、先生方が生き生きと働き続けるためにも多忙化の解消は待ったなしの課題であり、県教育委員会としても引き続き取り組んでいきます。

音楽活動による 豊かな心の育成を目指して

相馬市立中村第一小学校 午来 勝頭

1 はじめに

本校は、中村城跡の大手門に面する歴史のある学校である。報徳仕法に基づく「中村一小四つの訓え」の理念を尊重し、良き伝統や歴史を引き継ぐとともに、体験活動を通じた教育活動の充実を推進している。また、相馬市との協力協定を結んでいるエル・システムジャパンによる支援も受け、音楽活動を通して自己表現し、仲間意識を高めることを目指している。ここでは、その一例を紹介する。

2 未来を担う子どもの育成

(1) エル・システムジャパンの外部講師招聘支援による本物の音楽に触れ、体験する鑑賞活動

① 第1学年、第2学年「口笛鑑賞教室」

世界大会で2度優勝経験のある講師を迎えて口笛鑑賞教室を実施した。子どもたちは、普段聞き慣れている口笛とは比べものにならないほど澄んで音量豊かな高音の口笛演奏に驚いていた。また、クイズ形式の話の中で様々な鳥の鳴き声を模した演奏を聴くとともに、聴き慣れた曲に合わせて踊ったり歌ったりするなどの活動を楽しに行った。



口笛演奏に感動する子どもたち

② 第5学年「邦楽鑑賞教室」

地域で琴のサークル活動を行っている講師の方々を迎えて邦楽鑑賞教室を実施した。宮城道雄の「春の海」などの演奏の後、学級ごとに琴の演奏体験も行った。初めて琴に触れる子どもたちが多い中、友達と協力しながら真剣に演奏し、美しい音色を奏でることができたことに感動していた。



琴の範奏に聴き入る子どもたち

(2) 子どもたちの心をつにし、全校で活動のよさを共有する校内音楽会

本校は、学習発表会の一環として校内音楽会を秋に実施している。本年度は、実施の前週の台風19号により多くの子どもたちの自宅が被災し、一時、実施は困難と判断した。しかし、厳しい生活環境の中にあっても、元気に登校し、音楽会に向けて頑張っている子どもたちの姿を、保護者や家族に伝えたいという強い思いから、保護者の理解を得て、実施に踏み切った。当日は、体育館いっぱいのお客さんの中、子どもたちは練習の成果を発揮して心に残る演奏を行い感動を与えた。被災等のために都合により来校できない保護者への配慮として、当日の様子を録画し、後日全ての家庭にDVDを配付した。



練習の成果を発揮する子どもたち

3 むすびに

子どもたちには、「笑顔いっぱい、あいさついっぱい、歌声いっぱい」の学校にしていこうと機会あるごとに話しかけている。本校伝統の季節ごとに歌詞が変わる校歌も、元気いっぱい歌う声が教室から響いてくる。時には、今月の歌であったり、音楽科で今学習している歌であったりする。

これからも、子どもたちが元気いっぱい、笑顔いっぱい登校し、大きな声であいさつをして下校するような心豊かで、活気のある学校づくりに努めていきたい。

双葉地区だからできる教育を ~たくましく未来を創る力の育成を目指して~

富岡町立富岡第二小学校 渡邊 かおり

1 はじめに

東日本大震災および原子力発電所事故により避難を余儀なくされた双葉8町村で組織される双葉支会は、未だに避難先で教育活動を行う学校、児童数減少による休校や複数校兼務による会員数の減少など、解の見えない課題を抱えます。そのような地区だからこそ、ふるさとに誇りをもち、よりよい未来を創造し、積極的に社会参画できる児童を育成できる教育活動に取り組んでいます。

2 未来を担う子どもの育成

(1) 「ふるさと創造学」の取組

主体性・協働性・創造性を伸ばし、自ら未来を切り拓く力を育むことを目指した『ふるさと創造学』に取り組んでいます。これは「双葉郡独自の魅力的な教育を形にした『ローカルで多様な探究的学び』」であり、「震災で得た経験を生きる力に」との思いから始まりました。本校でも「富岡の応援団になろう」をテーマに、福祉・防災・歴史伝承の視点からふるさとの課題を捉え、解決策を考え実践することで、ふるさとを支援できる児童の育成に取り組んでいます。

お年寄りに喜んでもらえる活動計画を立てて実践したり、教室を暴風雨から守る手段を実行したり、避難校の歴史を音声や映像で綴ったりする活動を通し、児童は多くの方が自分たちを支えていることや富岡町を大切に思っていることの理解を深め、今度は自分たちが富岡の町や人たちのために役立つことをしていきたいと、ふるさとを想う心を育てています。



気象情報をもとに暴風雨に備える児童

(2) テレビ会議システムによる遠隔合同授業

児童の多面的多角的な見方を育てたいと週一回ほど富岡校や葛尾小学校と、道徳科・算数科・国語科を中心にテレビ会議システムによる遠隔合同授業を行っています。児童が効果的に学び合うことを目的とし、適切な接続場面や時

間、全ての教員が指導の中心となる役割分担などの工夫に努めています。学び合いでは、話し合いを補助する資料等を掲示し、児童自身が意見をつなぐ学習スキルの定着を目指しています。児童は、聞き手を考えて自分の意見を発信したり、友達の考えを受けて答えたり、友達の



児童同士の学び合いを大切にする遠隔合同授業

発言を聞き自分はどう考えるか再考したりするなど、相手意識や目的意識が向上しています。

(3) 様々な小学校との連携・交流

避難校の「三春校」と帰還校の「富岡校」。同じ富岡町立小学校として、入学式や遠足、運動会などの多くの学校行事を合同で行い、将来はふるさとを支え合う仲間として『富岡は一つ』を大切にしています。また、葛尾小学校や川内小学校も交えた水泳記録会や持久走大会、長縄跳びの大会を実施し、児童同士が競い励まし合う機会としています。

近隣にある三春町立御木沢小学校とは、全校生での交流だけでなく、学年ごとに合奏や体験活動、見学学習など効果的な交流を行い、多くの友達と直接関わり合うことで、活動の幅や想いを広げています。さらに5・6年生は、東京都にある明星学苑明星小学校に一日入学をし、朝の集いから割り当たった学級に入り、その日は明星小学校の児童として学校生活を送ります。不安そうだった表情も、いつの間にか明星小学校の児童と笑い語り合う楽しげな表情に変化し、驚かされます。「児童は児童によって成長する」のだということを痛感する一日となります。

3 むすびに

双葉地区の学校が、とことん「人・もの・こと」とふれ合える豊かな教育活動を展開できるのは、多くの方々の温かい思いや支援によるものと深く感謝しています。取り組むべき課題は多いですが、子ども一人一人の輝く姿が地域を元気にする源の一つであることを自覚し、双葉地区だからこそできる教育を模索していくことが、この支会の使命であると考えます。解のない時代や地域でも自分がやるべき課題と向き合い、仲間とともに考え、何度でも挑戦する「たくましく未来を創る力」をこれからの教育活動でも育てていきます。

特色ある教育活動の継続と推進 ～エネルギー環境教育を中心にして～

いわき市立中央台東小学校 江尻 陽子

1 はじめに

本校は、太陽光発電や雨水利用システムを備えたエコスクールであることから、創立当時より16年間エネルギー環境教育を推進している。全ての生活や産業活動の基盤となるエネルギーについて最新の情報を学び、ESD（持続可能な社会）の概念形成を図り、将来のエネルギー環境問題を解決しようとする力を育成することをねらいとしている。

2 未来を担う子どもの育成

- (1) 大学・高専、企業、科学関連施設等との連携
毎年、石川哲夫特任教授（医療創生大学）より放射線を含むエネルギーについて直接学ぶ機会を設け、放射線の種類や遮蔽効果について学習している。また、福島高専や岩手大学、さらに東北電力やパナソニック・日産自動車・福島県環境創造センター・石油連盟等の科学関連企業や施設等と連携し、先進的な情報や技術を用いて授業を行い小学校の段階から長期的にエネルギーに関心をもち続けることができるよう図っている。

- (2) 全学年体制のプログラムを展開

生活科・理科・総合的な学習の時間を中心に、ものづくりや実験体験活動を取り入れ、全学年が意欲的に楽しく取り組めるよう工夫している。園芸委員会のグリーンカーテン作りや環境委員会のエコ動画作りなど、児童の主体的な活動も盛んである。全校集会では、校長が、台風19号や豪雨の被害をスライドで紹介し、これらが地球温暖化によって引き起こされていることを「2050年天気予報（NHK）」の動画により解説した。児童は、2050年に想定している事態がすでに起きていることに危機感をもち、CO₂を出さないために自分たちができることを考え、環境委員会が中心になって全校生で取り組む節電・節水・環境保全等の3つの提言を呼びかけた。



全校集会における環境委員会の提言

- (3) 保護者や地域に向けての啓発

今年度は保護者から子ども会主催の実験ショーの要望があり、7月6日土曜日に児童・保護者が約370名参加して、校長による地球温暖化やエネルギーに関連する「サイエンスショー」を行った。また、「ふくしま教育週間」の期間に全学年がエネルギー関連のものづくりや実験体験を行ったところ、例年以上の来校者があり、大盛況となった。また、学校便りはもちろん、日々更新しているHPにおいても各実践をリアルタイムで紹介しているため、アクセス件数が大幅に増加した。さらに、6学年エネルギー教育発表会を授業参観時に位置づけ、保護者や児童が進学する中学校にもエネルギー環境教育への理解を広げている。

- (4) 研究の継続性



6年生エネルギー教育発表会

本校において開校から16年間、伝統的にエネルギー環境教育が推進されているのは、全学年体制であり、スキルが上学年から下学年へと受け継がれていくためである。毎年、2月の授業参観前に、6学年が4・5学年に向けてポスターセッションを行い、研究の方向性を教示している。参観日には保護者に向けて行うため、6学年児童は繰り返し行う発表によりプレゼンスキルを向上させ、自信をもって中学校へ臨み、活躍の場を広げている。例年行われるこれらのプログラムにより児童の意欲が維持向上し、エネルギー問題を真剣に考え、自分たちの手で解決していこうとする自信や態度が培われる。このようにして、本校の特色ある教育活動のエネルギー環境教育が伝統となり、継続推進を可能なものとしている。

3 むすびに

令和2年度からの新学習指導要領全面実施に沿い、「主体的・対話的で深い学び」の具現に向けて、エネルギー環境教育を通してさらに児童自らが考え判断し、よりよく問題を解決できる資質を育てていく。また、「ふくしまの未来を担うたくましい子どもたちの育成」のために、ESDの概念形成を図り、継続してエネルギーに興味関心をもち続け、日本のエネルギー問題を解決する力を身につけていく。福島に生まれ、育った子どもだからこそ、必要な教育活動であると考えている。

地域や家庭と連携した 防災教育の推進

福島市立佐倉小学校 瀬川 和弘

1 はじめに

本校は西側に吾妻山を望み、北側は荒川が流れている地域に立地し、これまで幾度となく氾濫の被害を受けており、火山泥流の被害も予想される地域です。そのため保護者や地域住民の防災に対する関心は高いと言えます。こうした実態を受け、本校では地域や家庭との連携を図った防災教育を実践していますので、その中からいくつか紹介します。

2 未来を担う子どもの育成

(1) 地域と連携した特色ある活動

□防災フィールドワーク

保護者と一緒に地域のフィールドワークを実施しました。この活動のねらいは自分たちが生活している地域の環境や避難場所を具体的に知り、親子一緒に災害時どのような行動をしたらよいか考えることができるようにすることにあります。



親子で防災フィールドワーク

国土交通省東北地方整備局や、福島河川国道事務所の方々、地区消防団の方々の協力を得て実施しました。活動後には全体での振り返りを行ったり安全マップづくりを行ったりしました。保護者の方からも「長く地域に住んでいるが初めて知ることが多かった。」との感想が寄せられました。

□中学校区合同避難訓練

同中学校区内にある小・中学校、幼稚園が連携し、同じ日時に大地震発生を想定した避難訓練・引き渡し訓練を実施しました。この活動のねらいは、児童に生命・身体の安全を守るための必要な知識、態度・習慣を身に付けさせることと、同一時間帯に引き渡し訓練を行うことに

より、兄弟関係のある保護者の方々にどういった順番で動くかを考えてもらうことにあります。

本校では数年前から毎年引き渡し訓練を実施していますので、大変スムーズに行うことができました。

(2) 授業での取組

本校では1・2年生は生活科で、3年以上は総合的な学習の時間で防災教育を実践しています。ここでは、4年生と6年生の実践例を紹介します。

□4年生「荒川たんけん」

福島大学の先生や地区資料館の専門家から学んだり、荒川現地での堰堤や霞堤を見学したりする活動を通し、荒川の氾濫から自分たちの暮らしを守るためにどのような工夫や努力がなされているかを追究し、模造紙にまとめました。学習のまとめとして3年生にその成果を紹介しました。

自分たちの身近にある荒川のよさや危険性を正しく認識し、万が一の際の対応の仕方を理解することができました。

□6年生「作ろう佐倉地区防災マップ」



防災マップづくり

子どもたちは、危機管理センター見学で学んだ市防災マップのよさや課題を共有した後、実際に地域内を自分たちの目で見て自作の防災マップづくりに取り組みました。完成したマップを使い、地域の方々へ伝える活動も行い、地域の一員としての防災意識を高めました。

3 むすびに

災害は、いつ、どこで起こるか分かりません。どんな災害が起きても冷静に判断し、対応し、自分や地域の方々の命を守ることができるようにするためには、災害に対する正しい知識を身に付け、防災意識を一層高めていく必要があります。

これからも保護者・地域と連携し、地域の安全な未来を担う子どもたちの育成に取り組んでいきたいと思えます。

福 今年度の活動を振り返って

福島市立荒井小学校 伊藤 勝彦

1 はじめに

福島支会は、福島市と川俣町の国公立54校の校長により組織され、年6回の定例会を中心に、6方部ごとの研修会も併せて実施してきました。今年度は16名の新会員を迎え、各会員の力を結集しながら諸活動を推進してきました。

2 今年度の取組**(1) 各種研修の推進****① ニーズ研修の実施**

第4回定例会では、医療法人慈心会村上病院長をお迎えし、「発達障がいの人を支えていくために」と題してご講話をいただきました。また、個別の支援を要する児童や保護者に対する校長としての対応について情報を共有することができました。

第5回定例会では働き方改革についての研修を行い、県小学校長会「教員の働き方改革宣言」及び地区小学校長会行事等検討委員会答申についての説明と今後の方向性について共通理解を図ることができました。

② 学校経営研修会の開催

今年度本地区に着任した新任校長・教頭を対象とした研修会を開催し、管理面や指導面、各種事務手続き等に関する実務的な研修を行いました。また、ミドルリーダーや管理職考査受考者を対象とした研修会を随時開催し、人材の育成に努めました。

(2) 課題研究の推進

第3回及び第4回定例会は「支会研究協議会」とし、各方部ごとの研究課題に沿って、方部研修会を通して研究実践してきた内容について発表・協議を行いました。県研究部幹事からのご指導をいただき、充実した研修となりました。

(3) 教育復興への取組

なみえ創成小・中学校、福島第一原子力発電所を視察しました。震災後9年目の現状と課題について把握するとともに、「学校は復興の最大の拠点」であることを再認識しました。

3 むすびに

今後も各会員が連携・協力し、校長のリーダーシップのもと、魅力ある福島の教育を創造していきたいと考えています。

田 今年度の活動を振り返って

田村市立瀬川小学校 横田 善広

1 はじめに

本会は、田村市、三春町、小野町の1市2町の21校の会員で組織されています。

会員が直面する課題を共有し、その課題解決に向けて、会員相互の結びつきを強めながら活動してきました。

2 今年度の取組**(1) 小・中合同研修会**

年4回の研修会を設け、グループごとに提案発表を行い、協議を通して研修を深めてきました。今年度は、「小中一貫教育について」、「小・中連携教育を進めるにあたって」、「学校運営協議会の在り方について」等のテーマについて提案がなされました。

また、8月開催の一日研修会では、秋田大学の阿部 昇先生を招いて、「学力向上に責任を果たす校長の役割」についての講演をいただきました。

(2) 各専門部会

「行財政部」、「研究部」、「生徒指導部」、「広報部」の4つの専門部に分かれて活動をしてきました。特に、研究の推進においては、今年度のいわき大会での発表に向けての最終確認を行ったり、令和2・3年度の研究の方向性について検討したりするなど、計画的・組織的な研究の推進に努めてきました。

(3) 各種教育関係団体の活動の充実

各市町で実施していた陸上競技大会について要望等を取りまとめ、来年度から地区校長会が主体として実施することとしました。

また、地区教職員研究物展の実施方法についても検討を重ね、各種活動を働き方改革の視点から見直すなど、様々な今日的課題の解決に向けて活動をしてきました。

3 むすびに

地区内では少子化の影響で児童数が減少し、学校の統合がここ数年続いています。それに伴い学校数が減少し、これからの校長会の在り方について検討することが必要になってきています。

今後とも、校長会での情報交換や情報共有を図るなかで、地区や各学校の特色を生かした教育活動の充実に努めていきたいと考えています。



今年度の活動を振り返って

中島村立吉子川小学校 石沢 泰蔵

1 はじめに

本支会は、白河市、西郷村、中島村、矢吹町、泉崎村、棚倉町、塙町、矢祭町、鮫川村の県南域内が一つの支会となる37名で組織されています。

2 今年度の取組

(1) 東西しらかわ小学校長研修会

年度始めの総会を含め、年間5回の研修の場があります。毎回、各専門部の活動状況の確認、支会全体としての取組や五つの方部による班ごとの研究推進、教育課題の解決に向けた情報交換などを行ってきました。7月の研修会は小中学校長会合同での企画とし、特別の教科道徳及び外国語科・外国語活動への対応についての研修を、11月の研修会では新学習指導要領へ向けてのポイント及び社会に開かれた教育課程についての研修を行いました。いずれの会でも福島県教育庁義務教育課、社会教育課より講師をお招きできたことにより、最新の情報に触れ、時期を捉えた実り多い研修となりました。また、県小学校長会いわき大会、全連小東北連小秋田大会で支会を代表して発表することとなった班を支えるべく、研究内容を共有したり協議したりしてきました。

(2) 専門部会活動

県小学校長会組織を受けた「行財政部」「研究部」「広報部」「生徒指導部」の専門部と「特別調査部」を設けて活動を行っています。

(3) 班別研究

2年研究の2年目として、白河東班「豊かな人間性」、白河西班「連携・接続」、西郷班「研究・研修」、矢吹班「経営・組織、運営」、棚倉班「健やかな体」と、班ごとに分科会の研究を進めてきました。

(4) 現状視察

例年、震災以降の双葉地区の、復興と帰還しつつある学校や地域の状況を視察しています。今回は、東京電力廃炉資料館と福島第一原子力発電所の視察を行いました。

3 むすびに

昨年度より二つの支会が統合となり「県南は一つ」を合言葉に活動してきました。今年度は特に“ワンチーム”がぴったり当てはまるような、組織の結び付きと取組となりました。



今年度の活動を振り返って

会津若松市立鶴城小学校 唐司 和彦

1 はじめに

本支会は、1市2町の27名の会員で組織しています。ここ2、3年、大量退職が続く中、会員の入れ替わりが激しい中、支会としての伝統を受け継ぎながら、直面する課題について、その解決に向け、会員一丸となって活動しています。

2 今年度の取組

(1) 協議会・研修会

年3回の協議会を小中合同で開催し、小中相互の情報交換を図り、同時に、研修会も行って校長としての資質向上に努めてきました。第2回協議会ではコミュニティ・スクールの在り方について、11月には、小学校部会で、県小学校長会の補助を受け、町機能を地元で再開した大熊町を現地視察し、震災復興の現状と課題について理解を深めました。

(2) 専門部会

行財政部では、会津小中学校長会連絡会と行財政部長の合同会議を開催し、各種調査に基づき、会津・南会津4支会の行財政上の諸課題解決と連絡調整に取り組みました。

広報部では、広報「北会津」を年3回発行して、会員の相互の交流・親睦を図っています。

生徒指導部では、県の生徒指導調査に係る支会としての現状と課題を「生徒指導だより」にまとめ、共通認識を図り、課題解決に向けた情報交換等に取り組んでいます。

研究部では、県の研究主題に基づき、3つの課題について、年3回協議会と夏の研修会で、研修を深めました。また、7月のいわき大会では、第4分科会で支会の実践を紹介しました。

(3) 中学校長会及び退職校長会との連携

中学校長会と退職校長会との合同研修会を秋に開催しました。講演とその後の情報交換や意見交換で校長としての見識を高めています。

3 むすびに

学校は、今、大きな変革期にあり、様々な課題への対応が求められています。また、同時に教職員の働き方改革も進めなければなりません。今後も、仲間と共に悩み、知恵を結集し、その解決に資する校長会となるよう活動の充実に努めていきたいと考えています。

耶 今年度の活動を振り返って

麻 喜多方市立第二小学校 伊藤 博子

1 はじめに

本支会は、3市町村（喜多方市、西会津町、北塩原村）20名の会員で組織されています。これからの教育の在り方等の研修を深め、互いに情報交換しながら、各校の実態に応じたよりよい教育を目指し活動しています。

2 今年度の取組**(1) 研究の推進**

今年度は、前年度の研究の成果を踏まえ、2年間のまとめとしての研究を進めてきました。7月に行われた県校長会いわき大会では、「連携・接続」について発表しました。また、「知性・創造性」「健やかな体」については希望支会として研究の成果をまとめました。

(2) 地区研修会

6月の研修会では、学校運営協議会について、文部科学省視学委員（当時 現在は三鷹市教育委員会教育長）の貝ノ瀬 滋様の講演をお聞きしました。また10月の研修会では、県教育庁教育総務課長の高瀬 智美様から福島県の教育課題とその解決に向けて校長が果たすべき役割についてのお話をお聞きしました。

(3) 各専門部会活動

県小学校長会部会と同様に、四つの専門部を設けて活動しています。

(4) 研修視察

11月にふたば未来学園、Jヴィレッジ、廃炉資料館を視察しました。ふたば未来学園の理念と施設及びそこで学ぶ子どもの姿から復興への強い思いを感じました。また、廃炉資料館では、廃炉に向けてまだ長い年月を要することを知ることができました。

3 むすびに

研修会、研修視察等で、これからの福島県の教育について再考する場をもつことができました。子どもたちが安心して学校生活を送ること、子どもたち自身が自己のよさに気づき、そのよさを伸ばしていけるよう校長としてどうすべきかをこれからも会員みんなで考えていきます。

両 今年度の活動を振り返って

沼 会津坂下町立坂下南小学校 冠木 誠

1 はじめに

本支会には、7町村の14校が所属している。10校が小中規模校であり、その内5校は6学級未満である。会員の半数である7名が今年度の転入者で、うち5名は新任である。会員相互の情報交換や連携を大切にしながら活動している。

2 今年度の取組**(1) 研究の推進**

2班構成で推進しており、1班は、「I学校経営1経営、組織・運営」、2班は、「V教育課題10連携・接続」について研究した。1班は、いわき大会で発表した。

(2) 各専門部の活動**① 行財政部**

県行財政部の活動として、諸調査の実施、集約、報告を行い、関係団体等への働きかけを行った。

② 研究部

2班に分かれ研究を推進したが、今年度は県大会の発表に向けて、原稿の検討、プレ発表等の準備を中心に活動した。

③ 広報部

年間3回の広報「両沼」を発行し、会員の相互理解及び情報交換等に役立てた。

④ 生徒指導部

県生徒指導部の活動として、諸調査の実施、集約、報告を行った。異校種、地域との連携を進めた。

(3) 研修視察

全会員が参加して、東京電力福島第一原子力発電所、同廃炉資料館、再開した富岡町内の小・中学校を視察した。

3 むすびに

今年度は、会員の半数が入れ替わり、会の運営に苦慮した部分があったものの、会員相互の連携を深め県大会での発表で成果を確かめることができた。また、東日本大震災の記憶を後世に伝える責任を担う校長として、原発事故処理の実情を知ることができた点も大きな成果であった。今後も小さな支会でこそ可能な活動を継続したい。

南
会
津

今年度の活動を振り返って

南会津町立荒海小学校 白井 秀行

1 はじめに

南会津支会は、4町村（南会津町、下郷町、檜枝岐村、只見町）13名（檜枝岐村は、小中兼務で中学校籍）の会員で構成されています。小・中合わせても20名なので、小・中校長会と一緒に活動することも多いです。そのことを強みととらえ、学校間の連携を図りながら今日的な課題解決のために活動しています。



2 今年度の取組

(1) 研究活動の充実

本支会は、県いわき大会に向けて、昨年度よりの研究をさらに進め、発表のための準備を計画的に行ってきました。大会当日は、発表として第10分科会「連携・接続」異校種間の成長の連続性を重視した取組、希望支会として第8分科会「危機対応」防災教育や自然災害への対応と校長のあり方について、地区の実態を踏まえた研究の成果を発表することができました。

(2) 各専門部会、各種教育関係団体の活動の充実

本支会では、専門部会として「行財政部、研究部、生徒指導部、広報部」の四つの部会を設けて県の活動と連携を図りながら推進してきました。また、小教研や特別支援教育研究会、実務研修会等の各種教育関係団体の活動も積極的に推進し、人材育成にも努めてきました。

(3) 小・中合同研修会

今年度は、南会津教育事務所の伊藤先生より「SNSに関わる生徒指導上の問題への学校の対応について」の講演をいただきました。また、退職・現職校長会の合同研修会も行いました。

(4) 教育事務所との教育懇談会の実施

南会津の教育課題について、学校現場と教育行政の立場からの意見を交換しました。

3 むすびに

本支会では、児童数の減少が続いており、来年度複式学級の学校が増えます。今後も小規模校のメリットを生かしながら、少子化に対応した学校教育の充実に努めていきたいと考えています。

い
わ
き

今年度の活動を振り返って

いわき市立郷ヶ丘小学校 高野 淳一

1 はじめに

本支会は、内郷地区の小学校1校の廃校を受けて、65校63名の会員で組織されています。今年度は、『ともに学び、考え、行動する校長会 いわきの未来を担う心豊かでたくましい子どもたちの育成』を活動目標に掲げ、一丸となって活動に取り組んできました。

2 今年度の取組

(1) 第48回福島県小学校長会研究協議会の開催

7月22日から23日の二日間にわたり、スパリゾートハワイアンズを会場として研究協議会を開催しました。一日目は、開会行事の後、10の分科会に分かれ活発な話し合いがなされました。その後、参加された会員が一堂に会しての懇親会が開かれました。二日目は、いわき市出身の立命館大学准教授である開沼 博先生から、「福島の実状と課題、これからの教育に必要なこと」という演題での記念講演をいただきました。その後、閉会行事を行い、二日間の日程を閉じました。ご参加くださった多くの先生方から感謝の言葉をいただき、二年間に渡り準備を重ねてきた苦勞が報われた思いがしました。県小学校長会の役員の皆様をはじめとする事務局の皆様、そして、ご参加くださった先生方のご協力に心より感謝を申し上げます。

(2) 市方部長会及び主催行事関連部長会

市内7方部の方部長と校長会が主催する関連行事の部長、そして役員が集まり研修会を行いました。そこでは、各方部の課題や新学習指導要領の実施へ向けての意見交換や、児童数減少等に伴う主催行事の見直し等について協議をしました。

3 むすびに

10月の台風19号そしてその後の豪雨により、児童の家庭を含む市内の数多くの世帯はもちろん小学校4校が敷地や校舎に大きな被害を受けました。また、自宅が被害を受けた教職員も多数出ました。今回の災害に対して、県小学校長会をはじめ、多くの方々からお見舞いや励ましの言葉をいただき、本当に感謝しております。今後も関係機関と連携し、一日も早い復興とともにこれまで以上に充実した教育活動が実践できるよう取り組んで参りたいと思います。

“親父の味と自分の味”,そして“とらの味”

とら食堂店主 竹井 和之 さん

今や日本全国どころか海外にも名前が知れ渡る、白河市郊外「とら食堂」のラーメン。従業員さんから“親方”と呼ばれる店主、竹井和之さん(64歳)の人生は、ラーメンと向き合ってきた一日一日の積み重ねです。今回、ラーメン作りの経験と、深い思いの中からほんの一部を伺うことができました。

—まず、白河ラーメンのこと、ラーメン店でのお仕事を教えてください。

白河ラーメンは、鶏ガラや豚骨を主体とした醤油ベースのスープと、多加水の縮れ麺が特徴。細かい定義はないと思っているが、シンプルなものだけに、それらのバランスが重要。うちはその麺を、手のかかる手打ちでずっとやってきた。全てが手作りだから、午前4時過ぎには従業員と一緒に調理場に入っている。

—カウンターの壁に掛けてある、そば店主さんからの書「そばを打つ 自分を打つと

いい聞かせ」からも、いかに手打ちを大切にしているかが伺えます。先代の初代店主、竹井寅次さんはお父様でもある訳ですが、寅次さんのラーメン作りはどのように始まったのでしょうか。

親父は、「まるい食堂(白河市内)」のラーメンに惚れ込み、頼み込んで40歳近くになって弟子入りをした。自分の店を持つまでは、ラーメン作りを人に教えることもしていた。ただ、まるい食堂の味をそのまま伝えた訳ではなく、親父なりのアレンジも加えていて、その一つが麺の“手打ち”だった。

—寅次さんのラーメン作りへ向かう姿が、和之さんの生き方にも影響を与えたのでしょうか。

私が子どもの頃、親父が働いていた店によく遊びに行っていて、ラーメン作りを教わったこともある。中学2年の頃には「ラーメン屋になる」と決めていた。とら食堂が開店した頃、外に出ていることが多かった親父の穴を埋めるように手伝ううち、私になし崩し的に店を仕切るようになった。親父は1983年に56歳で亡くなった。「先代がいなくて」「味が落ちた」「寅次さんがいなければとら食堂は終わりだ」と言われたことは、今でも忘れられない。その頃の1、2年は無我夢中だった。自分なりのやり方が固まるまでに5年はかかっていたと思う。お客さん、常連さんから評価されるようになるまでには更に10年、40歳を過ぎてのこと。

—そうしてとら食堂の看板を引き継ぎ、守り続けているわけですね。

店の味を守ることと創業当時の味を忠実に再現することは必ずしも同じではない。そもそも、親父のラーメン作りは目分量で、自分の舌と勘が頼り。いわゆる天賦の才でできていたので、文字通り誰にも真似(再現)はできないという訳だ。お客さんは「とら食堂でうまいラーメンを食べた」ということで評価しているのだから、うまいラーメンが作れるようになって初めて親父と肩を並べられる。そのためには、自分の色も出し、納得のいくものにしていく必要があった。だから、スープや麺で研究しなければならないことは山程あった。今までやってきた分の中身は本にして出版した。しかし、うまいラーメンが作れても、毎日出せなければ意味がない。調理場の環境、その日の天気、気温、

材料の具合は一定ではなく、機械的に同じことをしていてもだめ。また、人の味覚というのは変わっていくもの。それら全てに応えることができる、つまり進化し続けることで“とら食堂の味”が、多くの人にいつまでも親しまれるようになっていくと思っている。

—求める人には、本にして「とら食堂」の全てをオープンにしたことは、寅次さんが多くの人にラーメン作りを教えたことと通じるものを感じました。おいしいラーメンを通して“いつも変わらない、変わりゆく味”をありがとうございます。ますますのご発展をお祈りいたします。

(きき手 中島村立吉子川小学校 石沢 泰蔵)



店正面：開店前から行列ができる

プロフィール

- 1955年 白河市に生まれる。
- 1974年 東京で就職していたが、19歳で「とら食堂」に入る。
- 1983年 先代(父 寅次さん)が亡くなった後、28歳で店を引き継ぎ、現在に至る。
- 〈近年〉 2004年10月:「全国ラーメンフェスティバル in 白河」開催、2014年:パリにて日本政府主催ラーメンウィーク出店、2017年:「とら食堂 全仕事」刊行、2018年4月:NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」放送、2019年8月:福島民友 コラム「マイストーリー」連載(全12回)

秋の叙勲 ～おめでとうございます～

令和元年度の「秋の叙勲」が発表され、本会元会員の叙勲者は次のとおりです。
なお、規定により祝電をお送りしました。

☆瑞宝双光章（4名）

遠藤 育夫 様 元郡山市立金透小学校長（70歳） 佐藤 憲 様 元会津若松市立鶴城小学校長（70歳）
三輪 幹治 様 元田村市立船引小学校長（70歳） 西 信一 様 元南相馬市原町第一小学校長（70歳）

祝 表 彰 —表彰おめでとうございます—

◆文部科学大臣教育者表彰

佐川 正人（喜多方）

◆福島県教育委員会表彰

○学校教育功労者（4名）

佐々木義通（保原） 佐久間芳雄（白河二）
武藤 誠（みさか） 佐川 正人（喜多方）

◆永年勤続表彰（38名）

稲川 竜寿（立子山） 粥塚 保則（石田）
伊藤比呂美（塩沢） 織田島浩孝（安達太良）
大越吾都臣（原瀬） 安田 茂（栃山神）
松原 強（大槻） 積田 育子（長沼）
武藤賢一郎（牧本） 佐久間敏晴（滝根）
大山 俊（夏井一） 新田 直子（白河四）

長田修一郎（信夫二） 石沢 泰蔵（吉子川）
大竹 孝喜（社川） 古川 徹（湊）
篠崎 俊樹（一箕） 野原 光弘（磐梯一）
佐久間 仁（磐梯二） 永島 慶和（翁島）
二瓶 元嘉（喜多方三） 酒井 宏尚（裏磐梯）
高原 昇（笈川） 星 潔（柳津）
酒井 央（松沢） 酒井 健（楢原）
渡邊 義人（桜丘） 永峯 秀桐（飯豊）
柿沼 孝明（上真野） 木村 裕之（浪江）
角田 健司（夏井） 小玉 則子（大浦）
遠藤 修（桶売） 鈴木 喜克（小白井）
大石 正文（高坂） 木田 寿憲（永崎）
谷中田 正（錦） 紺野 真一（川部）

— 令和2年度行事予定表(案) —

Table with 6 columns: 月, 本会大会・理事会等, 総務・経理, 行財政, 各研究会, 生徒指導, 広報. It lists various events and meetings throughout the year.

編集後記 「ふくしまの絆Ⅲ」との同時発刊の記念
すべき会報250号をお届けします。ご多用
の中、玉稿をお寄せいただきました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

- 発行 福島県小学校長会
〒960-8107 福島市浜田町4番16号 富士ビル2F
電話 024(534)5411 会長 佐々木義通(伊達市立保原小学校)
編集 福士久子・佐藤亮治・瀬川和弘・坂本真理・根本幸枝
印刷 陽光社印刷株式会社

(一助)福島県教育会館 事業ご案内
福島県教育会館の下記事業につきまして、
ご理解ご支援をよろしくお願い申し上げます。
●夏休みの友 ●福島県立高校入試問題集 ●大ホール・貸し会議室
●福島県書きぞめ展 ●教育関係者名簿 (教育関係者は半額)
福島市上浜町10-38 office@kyouikukaikan.jp
TEL 024-523-0206 FAX 024-523-0208